令和４年度　全国学力・学習状況調査　分析

平川小学校

１　調査結果概要

（１）本校・県・全国の平均正答率の比較

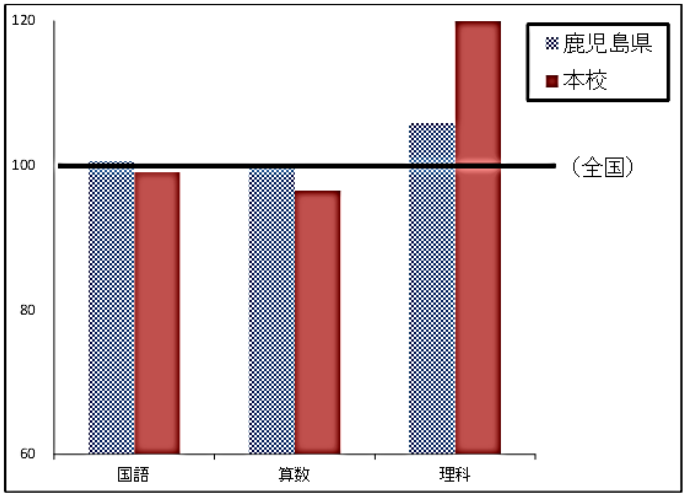
①　全国との比較

理科が大きく上回っている。一方，国語と算数において少し低い結果となった。

②　県との比較

理科が大きく上回っている。一方，国語と算数において少し低い結果となった。

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



（２）教科別の調査状況

ア　国語

・　平均正答率は，県より－１％，全国より－０．６％と若干下回っている。
・　中央値や標準偏差を見ると県や全国とほぼ同じような状況のため，学力の分布も県や全国並みであるということがうかがえる。
・　記述式の問題の正答率が低くなっている。
・　無回答は少なく，問題に粘り強く取り組んでいる様子がうかがえる。

【県より正答率の低い問題（●)】【正答率６０％を下回る問題（▼)】

●　言葉には，相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。【５・６年】
●　必要なことを質問し，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える。【３・４年】
▼　互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い，自分の考えをまとめる。【５・６年】
●▼　人物像や物語の全体像を具体的に想像する。【５・６年】
▼　表現の効果を考える。【５・６年】
●▼　文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整える。【５・６年】
▼　文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付ける。【５・６年】
●▼　学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う「録画」。【５・６年】
●　学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う「反省」。【５・６年】
●　学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う「親しむ」。【５・６年】
●　漢字や仮名の大きさ，配列に注意して書く。【３・４年】

イ　算数

・　平均正答率は，県より－２％，全国より－２．２％と下回っている。
・　中央値を見ると県や全国より若干低めであり，標準偏差も小さめであるため，全体的に学力が低めである様子がうかがえる。
・　思考・判断・表現に関する内容について個に応じた指導の工夫や補充指導の工夫も必要となる。
・　記述式の問題の正答率が低くなっている。
・　無回答は少なく，問題に粘り強く取り組んでいる様子がうかがえる。

【県より正答率の低い問題（●)】【正答率６０％を下回る問題（▼)】

●　　二つの数の最小公倍数を求めることができる。【５年】

●▼　示された場面において，目的に合った数の処理の仕方を考察できる。【４年】

●▼　百分率で表された割合と基準量から，比較量を求めることができる。【５年】

●▼　示された場面のように，数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。【５年】

●▼　伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて，未知の数量の求め方と答えを記述できる。【５年】

●▼　分類整理されたデータを基に，目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる。【３年】

●▼　図形を構成する要素に着目して，ひし形の意味や性質，構成の仕方について理解している。【４年】

▼　示された作図の手順を基に，図形を構成する要素に着目し，平行四辺形であることを判断できる。【４年】

ウ　理科

・　平均正答率は，県より＋１１％，全国より＋１４．７％と大きく上回っている。

・　中央値を見ると県や全国より高く，標準偏差も小さめであるため，全体的に学力が高い様子がうかがえる。

・　記述式の問題の正答率が低くなっている。

・　無回答はほぼ無く，問題に十分取り組んでいる様子がうかがえる。

【県より正答率の低い問題（●)】【正答率６０％を下回る問題（▼)】

▼　自然の事物・現象から得た情報を，他者の気付きの視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述できる。【４・５年】

▼　日光は直進することを理解している。【３年】

▼　実験で得た結果を，問題の視点で分析して，解釈し，自分の考えをもち，その内容を記述できる。【３年】

▼　観察などで得た結果を，結果から言えることの視点で分析して，解釈し，自分の考えをもつことができる。【４年】

（３）**児童質問紙**（全体的に“前向きな回答”が少ない傾向のものを中心に抜粋。下線部は質問内容。）

・　「毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問に，「当てはまる」「どちらかといえば，当てはまる」（以下“前向きな回答”とする）と答えている児童は，５７％である。

・　「学校の授業時間以外に，普段（月～金），１日当たりどれくらいの時間，読書をしますか」という質問では，３０分より少ないという回答は，７１％（内，「１０分より少ない」「全くしない」は３６％）である。

・　「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という質問に，前向きな回答は，３６％である。（昨年度３６％）

・　「前学年までに受けた授業では，各教科などで学んだことを生かしながら，自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に，前向きな回答は，５６％である。

・　「前学年までに受けた授業では，自分の思いや考えをもとに，作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」という質問に，前向きな回答は，５７％である。

・　「算数の授業で学習したことを，普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問に，前向きな回答は，５７％である。（昨年度４５％）

・　「理科の授業で学習したことを，普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問に，前向きな回答は，５０％である。

・　「将来，理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」という質問に，前向きな回答は，７％である。

・　「解答時間は十分でしたか」という質問に，前向きな回答は，国語は７９％，算数は９３％，理科は９３％である。

２　学力の定着・向上に向けて

（１）指導の工夫

①　どの教科も記述式の問題の正答率が低い傾向にあることと，自分の考えをもったりまとめたりする経験の意識が弱いので,「自分の考えをもち, 相手に伝わるように整理して（書いて）伝える」力の向上を目指す指導の工夫が必要。

②　問題を正しく読み取る力や，国語を中心に文章の大まかな内容（文章構成など）を捉える力の向上が必要。

（２）全校体制での計画的取組

・　「かごしま学力向上支援 web システム単元・領域別評価問題」の計画的実施

・　正答率の低い問題の洗い出しと，該当学年での補充指導